

2008年 第2回「ワーク・ライフ・バランス大賞」受賞者

1. 「組織活動」

組織名	取り組みのポイント	組織概要
【大賞】 パナソニック電工株式会社／ パナソニック電工労働組合 (大阪府門真市)	ー「シゴトダイエット」と労働時間削減を、労使一体で推進ー ○「シゴトダイエット」をスローガンに、労使が一体となり、全社的に業務効率化・生産性向上に取り組んだ。 ○その結果、企業業績に結びつくテーマ約 3,000 件が導き出され、職場の考えあう雰囲気作りに繋がった。 ○また、①定時退社日の推進、②年休取得の促進、③過重労働の防止に取組み、2007年10月からの半年間で総実労働時間の平均10時間削減を達成した。等	設立：1935年 業種：製造業 従業員：16,664名 組合員：12,669名
【優秀賞】 株式会社長岡塗装店 (鳥根県松江市)	ー働きやすい環境づくりで、若手社員の定着と技能伝承を推進ー ○働きやすい環境・制度を整えたことで、若手社員が増え、ベテランから若手社員への技能伝承意識が高まった。 ○制度の充実により、子育て中(18歳未満の子供がいる)社員数は2002年のゼロから2008年には11名(従業員の半数)に、30代までの社員も6名から11名に増えた。等	設立：1965年 業種：建設業 従業員：22名
【優秀賞】 旭化成グループ (東京都千代田区)	ー「ニュー・パパ・プロジェクト」で男性の育児休業取得を推進ー ○男性の育児参加に重点を置いて、若手男性社員による「ニュー・パパ・プロジェクト」を立ち上げた。 ○制度改定等により、配偶者が出産した男性の約半数(2006年～2008年8月までの累計で680名)が育児休業を取得。(取得期間は平均7日)等	設立：1931年 業種：製造業 従業員：17,427名

2. 「普及支援活動」

組織名	取り組みのポイント
【優秀賞】 社団法人日本看護協会 (東京都渋谷区)	ー看護職員が働きつづけられる職場づくりにより、定着率アップを推進ー ○看護職員の定着率に大きな問題を抱えている業界の事情を改善するため、長く働き続けられる環境づくりを支援し、職員の定着を図っている。 ○看護学生のための職場探しガイドや、看護管理者のための選ばれる職場づくりガイドを作成し、看護職員の質的・量的確保に取り組む。また、病院団体と連携し、多様な勤務形態導入先行施設の情報など提供を実施している。等
【優秀賞】 福岡県 (福岡県福岡市)	ー全国初の「子育て応援宣言企業登録制度」など先駆的な取り組みを実施ー ○全国に先駆けて、2003年から経営トップによる「自主宣言方式」を採択し、「子育て応援宣言企業登録制度」に取り組んだ。その後、他の自治体が追随し、同様の取り組みが全国に波及した。 ○現在、約20団体が登録制度を、内6団体が宣言方式を実施。県内登録企業は年々増加し、登録数は全国一(2007年3月642社→2008年9月1,743社)。等
【優秀賞】 株式会社イーウェル (東京都千代田区)	ー育児サービスなどの「クーポン」制度で企業の両立支援をサポートー ○福利厚生代行サービス「WELBOX」の会員企業の従業員を対象に「ベビーシッター・保育所クーポン」サービスを2006年より開始し、両立を支援している。 ○会員数は862団体155万人で、クーポン発行枚数は年々大幅に増え、2008年4～9月で約18,500枚となっている。また、保育所・ベビーシッターを紹介するコンシェルジュサービスも実施。等
【アイデア賞】 UIゼンセン同盟／ 日本プロ野球選手会 (東京都港区)	ー「ワーク・ライフ・バランス実現ボール」で、家族や仲間の絆づくりー ○「親子で！恋人どうして！友達どうして！キャッチボールしようよ！」をキャッチフレーズに、UIゼンセン同盟とプロ野球選手会の協力により、『ワーク・ライフ・バランス実現ボール』（プロ野球選手会公認）を作成し、販売。 ○親子や友達とキャッチボールをするゆとりの時間を持つことで、心や体のバランス確保、コミュニケーションの場づくりとしても話題を呼んでいる。等

3. 「標語」

- 【優秀賞】**「仕事テキパキ、生活イキイキ！」 (会社員 女性)
【優秀賞】「見えますか？ 仕事の先の自分の時間」(会社員 男性)
【優秀賞】「自分で舵取り 仕事と私事(しごと)」(会社員 男性)

* 第2回「ワーク・ライフ・バランス大賞」では、エッセイ部門の募集は行っていません。